



2021年度 事業報告

Report Digest

【 2021. 4. 1 — 2022. 3. 31 】

2021年度 経営報告

Purpose 人々の豊かな生活、地域社会、そして日本を支える「福祉」
私達は「誇り」を持って、日本の福祉を「創造」し、「挑戦」します

1. はじめに

2019年末に始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大（パンデミック）による日本国内での非常事態宣言、まん延防止重点措置など、当法人各施設・事業所の運営を継続していくには非常に強い逆風の中ではありましたが、高齢者、障がいをお持ちの方々の生活を支える社会福祉事業を運営する法人として、歩みを止めることなく覚悟を持って進んで参りました。

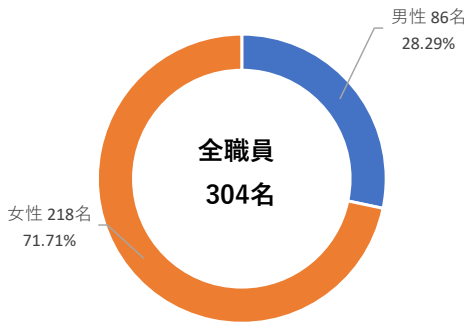
しかし、医学的な根拠に基づく感染対策を徹底したうえで運営を継続してきたつもりではありましたが、度重なる新型コロナウイルス感染者の発生により、生活介護事業所グリーンハイムの2週間に及ぶ事業休止や和幸園短期入所生活介護事業所、グリーンハイム短期入所事業所の事業休止、和幸園デイサービスセンター、和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森については、事業を縮小した運営を余儀なくされました。さらに、年度末には、特別養護老人ホーム和幸園において、ご利用者・職員を合わせて90名を超える大規模クラスターが発生する事態となりました。感染者となったご利用者のほとんどが施設内療養となったことにより、職員・ご利用者への感染拡大に歯止めがきかず、長期化することとなり、ご利用者の重症化による入院やご逝去される方が出してしまう大惨事となりました。同時に、新型コロナウイルス感染者発生やクラスター発生による経営への影響は甚大なものとなり、非常に厳しい決算を迎えることが予想されましたが、このような時期だからこそ、継続した職員待遇の向上と新型コロナウイルス感染者等に対応した職員への補償に取り組みました。

この新型コロナウイルスとの闘いは、2022年度も続きます。新型コロナウイルスに対するワクチンや治療薬の開発が少しずつ進んできておりますが、未だ新型コロナウイルス感染拡大に収束の兆しはなく、施設ご利用者に不便な生活を継続していただいております。大切な人と会えないご利用者の気持ちを思うと、非常に心苦しく思っております。だからこそ、2022年度はこれまでの生活を取り戻せるように新型コロナウイルスとの共存「ウイズコロナ」を視野に入れた各施設、事業所の運営に取り組んでいきたいと考えております。

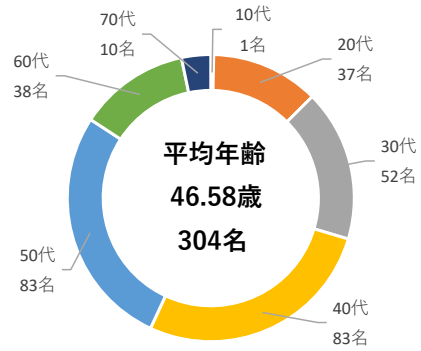
当法人が運営する社会福祉事業は、ご利用者である高齢者、障がいをお持ちの方々の生活と地域社会を支える事業です。災害の最中も、困難な事業環境にあつたとしても、私たちはお一人おひとりへの支援を続け、行動し続けなければならないと考えています。ご利用者も、職員も、その人らしく豊かな生活を送れるように、着実な法人経営を進めて参ります。引き続き、皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

2. 基礎データ

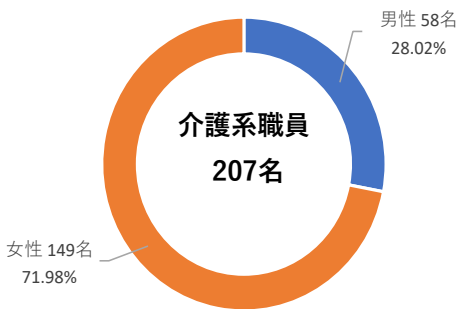
職員 男女比



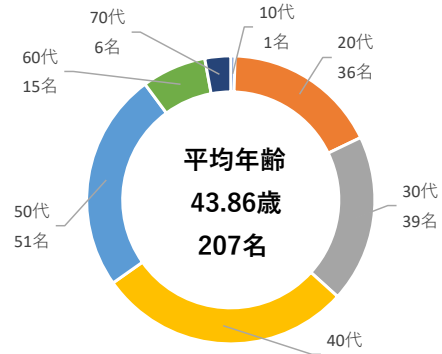
職員 年齢構成比



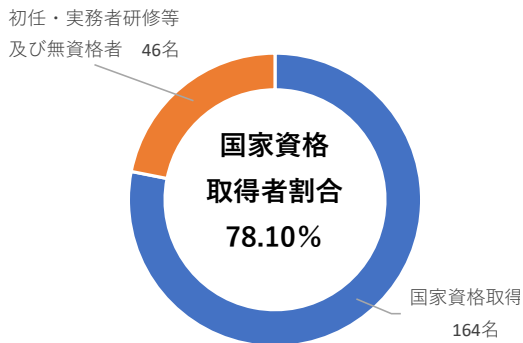
介護系職員 男女比



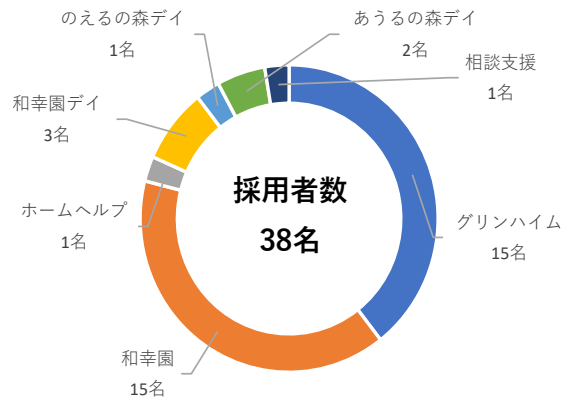
介護系職員 年齢構成比



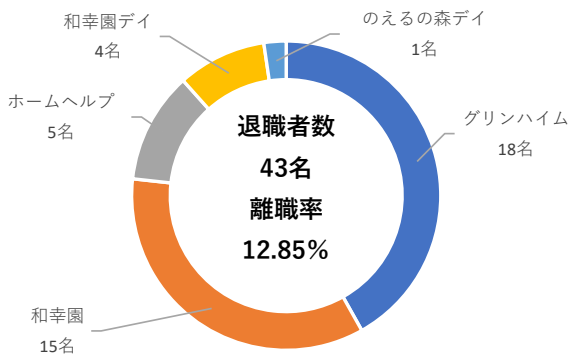
介護系職員 国家資格取得者数



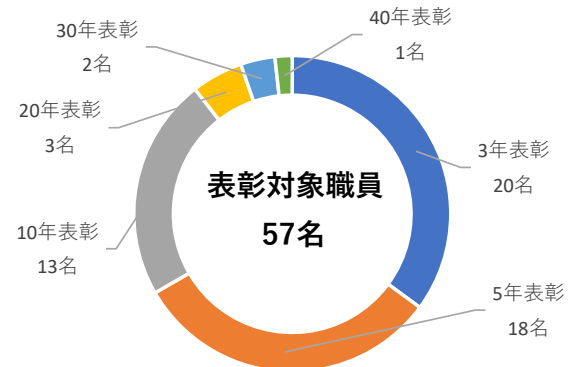
年間採用者数



年間退職者数



永年勤続表彰者



【平均勤続年数】 7.83年

【障がい者の雇用率】 3.17% (8名雇用) (法定雇用率2.30%/民間企業平均2.20%)

3. 財務情報

2021年度の決算については、新型コロナウイルス感染拡大、施設内でのクラスター発生等の影響を大きく受けましたが、法人合計では事業活動資金収支差額118,793千円、施設整備等資金収支差額▲48,106千円、その他の活動資金収支差額▲31,009千円となり、当期資金収支差額合計は39,676千円となりました。前年度比では大幅な減収となりましたが、新型コロナウイルス禍での厳しい経営環境下において、堅調な経営を継続することができたと考えています。

(1) ハイライト

- ・2021年度末の法人合計預金残高は636,061千円、各種積立金合計額は138,970千円、整備資金借入金残高は742,293千円となりました。
- ・新型コロナウイルス対策及び介護負担軽減のための機器購入、人材確保・育成のための経費、社会福祉法人減免等に係る各種補助金の申請を行い、総額17,000千円を超える補助金の交付を受けることができました。
- ・障がい者支援施設グリーンハイム会計における当期資金収支差額合計は、35,638千円と新型コロナウイルス感染拡大の影響を最小限に抑え、法人の経営基盤を支えることとなりました。
- ・和幸園居宅介護支援事業所会計（介護予防センター含む）及び相談支援事業所グリーンハイム会計は、職員配置体制の見直しと安定した登録者の確保により、当期資金収支差額合計で約3,000千円の黒字決算となりました。
- ・和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森、グリーンハイムホームヘルプサービス事業所会計においては、新型コロナウイルス感染拡大及びご利用者の減少により、事業活動資金収支差額においても赤字決算となり、次年度に課題を残す結果となりました。

(2) 決算データ

単位：千円

	勘定科目	決算額
サ ー ビ ス 活 動 増 減	介護保険収入	915,227
	障害福祉サービス等事業収入	634,911
	その他の事業収入（保育園運営助成金等）	9,281
	経常経費寄付金収入	5,979
	受取利息配当金収入	8
	介護保険・障害福祉関係等補助金	12,799
	その他収入（雑収益）	6,589
	事業活動収入計	1,584,794
	人件費支出	1,039,871
	事業費支出	222,553
事務費支出	189,272	
利用者負担軽減額	8,718	
支払利息支出	5,587	
事業活動支出計	1,466,001	
事業活動資金収支差額	118,793	
活 動 外 増 減	施設整備等補助金収入	4,258
	施設整備等収入計	4,258
	設備資金借入金元金償還支出	39,672
	固定資産取得支出	6,603
	ファイナンスリース債務返済支出	6,090
施設整備等支出計	52,365	
施設整備等資金収支差額	-48,107	
特 別 増 減	拠点・サービス区分間繰入金収入	14,000
	その他の活動収入計	14,000
	拠点・サービス区分間繰入金支出	14,000
	積立資産支出	31,010
	その他の活動支出計	45,010
その他の活動資金収支差額	-31,010	
当期資金収支差額	39,676	

●事業活動資金収支差額	118,793千円
【事業活動資金収支差額率】	7.50%
●当期資金収支差額	39,676千円
【当期資金収支差額率】	2.48%
●人件費比率	65.62%
●預金残高	636,061千円
●各種積立金	138,970千円
●借入金残高（施設整備費）	グリーンハイム 89,713千円 和幸園 652,580千円
●資産総額	2,118,502千円

4. 2022年度 経営方針（取り組むべき課題）

（1）誰もが、その人らしい生活を継続するための福祉サービスの提供と地域づくり

～「利用者視点」・「地域貢献視点」～

- ◆ 科学的根拠に基づく自立支援介護等の実践と研究（評価）に取り組みます。
- ◆ 法人中核事業である特別養護老人ホーム・障がい者支援施設のケア実践力の向上に取り組みます。
- ◆ 住み慣れた地域での暮らしの継続を実現するための在宅福祉事業のケア実践力の向上と相談系事業の支援力の向上に取り組みます。
- ◆ 感染管理について専門的な知識を習得した職員の配置と継続した各種感染症対策の徹底に取り組みます。
- ◆ 地域貢献活動等を通じた情報発信と地域住民との協働体制の強化及び地域ニーズの発掘に取り組みます。
- ◆ 災害福祉支援チーム（DWAT）の設置と非常時における適切なチーム派遣体制の構築に取り組みます。
- ◆ ご利用者、地域、職員への感謝の気持ちを込めた「法人設立50周年記念事業」の実施に取り組みます。

（2）自ら学び、成長、挑戦する意欲を引き出すチームマネジメント ～「人材視点」～

- ◆ 法人研修、育成研修、キャリアアップ研修、資格取得支援制度等の再検討と拡充に取り組みます。
- ◆ コミュニケーションの促進（個人面談の定期実施等）と人事評価制度のあり方の再検討に取り組みます。
- ◆ 職員一人ひとりの多様性を受け止めた積極的な起用に取り組みます。
- ◆ 介護職員を中心に幅広い職種の職員の待遇向上と職場環境の向上に取り組みます。

（3）持続可能な経営基盤の確立 ～「財務視点」・「ガバナンス視点」～

- ◆ 各種関係法令（制度改正）に対するコンプライアンス経営の徹底に取り組みます。
- ◆ 経営実績・財務状況の目標設定とモニタリングに取り組みます。
- ◆ 各施設・事業所の持続可能な経営スタイルの検討に取り組みます。
- ◆ 各施設・事業所の付加価値の確立と情報発信力の向上（他施設・事業所サービスとの差別化）に取り組みます。
- ◆ 既存施設等の修繕、改修と業務負担軽減、効率化等のための設備投資（介護ロボット、ICTの導入等）の検討に取り組みます。
- ◆ 新規事業への投資と資産運用の検討に取り組みます。